

10・3京都大集会へ!

全学連(斎藤郁真委員長) 書記局通信

2016年9月1日
祝! No.400

Tel 03-3651-4861
mail_cn001@zengakuren.jp
http://www.zengakuren.jp/

10/3 京大クスノキ前に 全国から総決起しよう!

全国のキャンパス・街頭で1万筆の署名を集めよう

■京都派遣団報告(8月27日)

京都美術館前で街宣。トラメガは使わずに地声でアジる場面も。ダリ展があるということで人通りも多く、107筆の署名が集まりました。多くの議論が生まれ、一昨日のデモを見ていたという大阪府立大の学生が「頑張ってくれ」と署名をしたり、ボードやノボリを見て、勝手にカンパや署名をしていく人も複数いました。

こちらが真っ向からストライキの意義を提起すれば人々に通用するという手応えがある一方で、処分を盾に学生を押さえ付けているだけの京大当局の在り方は全く通用していません。

「京大はいい大学だと思っていた」「大学で今、こんなことになっているとは」「(学費は払えという無期停学について)酷すぎる。イヤラシイ」などの声からも分かるように、京大の化けの皮が剥がれていっています。もっと激しいことを言っていた人も。

連日論議していた学生が昨日に続いて街宣で一緒に署名を集めてくれました。運動破壊の弾圧を権力の墓穴に!とはよく言いますが、まさにそんな感じです。今回の無期停学処分が引き金となって新たな団結と決起が継続して生まれています。情勢を作っている感じがします。全学連大会まで突っ走りましょう。【KO】

■京都派遣団報告(8月28日)

少し雨が降っていましたが、それほど強くなかったので昼から平安神宮前で街宣を行い、90分で54筆の署名とカンパが集まりました。老若男女、いろいろな世代の人と論議になり署名をもらいましたが、「素晴らしい、応援する」という人から「京大有志の会は何をやっているんですか?」など、鋭い質問をする人も。

もちろん今の情勢から運動の意義を語ることで多くの人が署名



やカンパをしてくれましたが、無期停学処分の破廉恥さを語ることで素直に怒り、署名してくれる人も多かった印象です。昨日に続き、勝手に署名をしたりカンパを置いていく人もいました。

夕方からは三条河原でも展開。署名は44筆集まり、一日合計で100筆近くに。今日はカンパが本当によく集まり、京都の人たちと共に闘いを作っている感覚がありました。署名、カンパをしてくれた人の想いに応えられるよう明日もがんばります。【KO】

■京都派遣団報告(8月30日)

大学を回る。まずは同志社。その後、京都精華大。署名はかなり取れた。かなりのびのびした場所だった。自分たちが話した人はOBで、学生運動と言うよりも労働運動に獲得されている模様で、こちらが労働の問題をどう捉えているかが問われた。話した人もこのような話題ができるのは嬉しいということで、署名も頂いた。大学回りの反応は総じていいものだった。大会参加も決まりつつある中で、本日の行動は以上。いよいよ大会。【HT】

4学生への無期停学処分撤回!

10・3京都大集会

10月3日(月)11時50分 京大本部クスノキ前集合
12時 集会開始
12時45分 第2回署名提出行動
【主催】 京都大学全学自治会同学会中央執行委員会



祝!400号 全学連運動の爆発が歴史をつくる!

元全学連委員長 白崎 順一(在任1987年7月～1994年7月・横浜国立大)

＜現：「とめよう戦争への道！百万人署名運動」事務局＞

『書記局通信』400号に寄稿させていただき、ありがとうございます。私の時代は『通信』ではなく『通達』と表現していたように記憶していますが、全学連書記局はいろいろな意味でとても重要な位置にあったと思っています。

私が委員長を務めた7年間は、三里塚・国鉄・天皇決戦、さらにはPKO法案と小選挙区制導入反対闘争の過程でした。その様子が当時(1993年)、フジテレビ系のドキュメンタリー番組として放送されました。題して『学生運動・現在形～ ヘルメットの現代っ子たち』。YouTubeでは「Zengakuren 1993」で検索できます(右写真＝番組でインタビューを受ける白崎さん)。カクマル、解放派、民青も出てきますが、私たちと法大学生運動が中心です。血債主義まるだしでがんばっている様子がよくわかります(笑)。

私は、学生運動の爆発なしに革命をたぐりよせることはないと思っています。それは学生運動・全学連運動が、労働者人民大衆に巨大な影響を与え、階級的労働運動の組織者・牽引車になりえるという意味です。その構造はウン十年前も今日も同じです。むしろ学生運動と労働運動を圧殺してきて迎えている革命的情勢の今だからこそ、全学連運動の爆発が歴史をつくる時代を迎えていると感じています。

全学連運動を「卒業」して20年以上になる私ですが、全学連運動の継承と発展のために何ができるかを考えています。それは一般論や理想論ではなく、常に具体的であるべきだと思います。

当面して一番重要だと思っているのは、京大大学4学生処分撤回闘争です。反戦ストが処分の対象で、それも「無期停学」という悪辣さ。これに怒りを覚える、「おかしい」と思う人は多いはず。もちろん京大生と京大教職員の中から分岐と決起をつくりだすことがカギですが、京大OB・OG、60年70年代、そして学生運動に関わり、触れてきたすべての世代から、京大当局への怒りと反撃を引き出し、4学生への支援を集めることはまったく可能です。処分撤回署名運動を全人民的なものへと発展させましょう。

二番目は、沖縄大学をめぐる闘いと、沖縄基地闘争です。京大に続いて沖大当局が赤嶺君へ



の処分攻撃に出てきたことは、沖縄大学学生自治会の存在と闘いが決定的段階を迎えていることの証明です。それは学内情勢の観点からも、沖縄全体の情勢からも言えるのでしょうか。私が学生の頃も、沖縄学生運動を構築できたかと言えば、そうではありませんでした。現在、富田晋君を先頭とした沖縄青年労働運動と連動しながら、沖大学生運動の奮闘が続いています。辺野古・高江という攻防の焦点に身を寄せながら、歴史的とも言える沖縄の学生決起をとにつくりだしていきましょう。

三番目は、公安警察による学生運動破壊を許さないことです。京大熊野寮ガサに警視庁公安部が乗り込んで行ったこと、5・14沖縄現地集会の当日に警視庁が沖縄に行って全学連の学生を不当逮捕したこと、今年は3・11福島だけでなく5・15沖縄や8・6広島にまで警視庁の公安刑事が行っていることなど、異様な弾圧体制がつけられています。この警視庁公安部を先頭とした学生運動破壊を許さないという課題は、まさに闘うすべての人民の正面課題だと思います。当面する全学連大会を権力から全力で防衛しましょう。

私は1998年1月、動労千葉・中野前委員長に要請され「百万人署名運動」事務局に加わりました。それ以降、「とめよう戦争への道！百万人署名運動」事務局で運動を続け18年になります。発行する『百万人署名運動全国通信』の最新号(226号)では、「大学の軍事研究に反対する」と題して野田隆三郎さんのインタビューを掲載しています。今後も学生運動関係を多く扱うと思いますので、その時はよろしく!

「即位の礼粉碎！ 皇居突入！」—渦巻きデモで進撃する白ヘル大部隊(1990年11月12日・渋谷)

